

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1090200013		
法人名	社会福祉法人　タービュランス福祉会		
事業所名	グループホーム乗附		
所在地	群馬県高崎市乗附町1200-1		
自己評価作成日	平成22年11月1日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigo-joho.pref.gunma.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人群馬社会福祉評価機構
所在地	群馬県前橋市新前橋町13-12
訪問調査日	平成22年11月19日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

家庭的な雰囲気のもとで、喜怒哀楽を共にし、季節に応じた催し物や行事を行い、季節感や自然、社会との触れ合いを感じていただけるよう努めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、入居者をそして入居者の一日を尊重して支援している。食事や入浴、外出すべてにおいて無理強いせずに支援し、できるだけその方ができることは行なって頂くようにその方の気持ちを大切にしている。ほぼ毎日、入居者の体調に応じて長短のコースに分かれて散歩をしたり、週に2～3回、同法人の他施設に車で行く用事を利用し毎回2～3名に声をかけ、少林山等への近隣ドライブを楽しんだり、月1回程度の外食は職員が下見に行き、複数案の中から入居者が場所を選ぶ等、日常的に外出する機会を多くもち日々を楽しめる工夫をしている。また、入居者の希望や職員の提案を行事やレクリエーションに取り入れて、実家近くの店を外食の場所に選んだり、納涼祭に浴衣でお化粧をして写真をとる等、それぞれの入居者が良い1日だったと思えるような支援に努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は玄関に掲示しているが、地域密着の視点からみたものを考え付け加えたい。	法人の各事業所の代表で作成した法人の理念を玄関に掲示しており、月1回から2回の会議等で確認し職員間で共有している。新年度に向けて、地域密着型サービスの意義を踏まえたホーム独自の理念に見直すため、職員アンケートを実施する等、取組みを始めている。	職員間で話し合い検討する場を設け、地域密着型サービスの意義をふまえた、ホーム独自の理念を作り上げることが期待したい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入し、地域の清掃活動や行事に参加。また、近所の方から声をかけていたりしている。また、月に2回程度ボランティアの方に来ていただいている。	地域の清掃活動に職員と入居者が共に参加したり、地域の方が楽器演奏のボランティアで訪問してくれる等の行き来がある。ほぼ毎日の散歩では近所の方と挨拶を交わしたり、ホーム庭先でのバーベキューでは近所の子供が遊びに来たりしている。また、地域の敬老会に招待され、入居者は芸能披露を楽しんでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	入居に関すること、グループホームに関しての相談や質問があるので対応している。また、「子供を守る家」「認知症サポーター」のステッカーを張り出している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者や家族の方から出た要望や意見を取り入れ、会議等で話し合い実際のサービスに取り入れるよう努めている。	入居者の家族に順番で出席を依頼して、意見や要望を聞いてサービスに取り入れている。そこでの意見を取り入れて、クリスマス会に家族のギター演奏を取り入れる計画を立てている。区長・班長・民生委員には、必ず声をかけている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	事故報告やアンケートなどの提出をおこなっているが、さらに取り組んでいきたい。	市からのアンケート回答や事故報告をしている。運営推進会議に関して、日程調整がつかず参加メンバーに出席してもらえない事について相談し、アドバイスを受け根気よく出席の依頼をしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人内に身体拘束に関する委員会を設置。契約書にも関連事項を記載している。また、玄関にも掲示してある。玄関の施錠ついて、日中はしていない。	法人内に身体拘束・虐待に関する委員会があり、委員になっているホーム職員も出席して、ホーム内の会議等で伝達している。ホームでは中扉にセンサーを設置して出入りが分かるようになっているが、外出願望がある入居者には、散歩やドライブをして対応している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人内に虐待防止に関する委員会を設置しており防止に努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活支援事業を利用している方がいるため、関係者と連絡しあい支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約内容や重要事項を説明し契約しているが、疑問点などあった場合はいつでも対応することを伝えている。改定などあった場合にも、その都度説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情相談窓口にホームと外部機関の連絡先を明記している。玄関に意見箱を設置している。	平均2～3ヶ月毎の家族の面会時に声をかけ、意見や要望を聞くようにしており、直接言いにくい場合には、意見箱に入れるように声をかけている。職員が聞いた意見は、「申し送りノート」に記録して伝達している。本日の勤務職員の名前と顔写真を掲示している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に2回会議を行って意見や提案を反映させている。	毎月のケア会議で、意見や提案を出し合い検討している。また、職員は日々の業務で気づいた時に、直接管理者に話し、その場合も会議で検討している。職員の意見を検討して、食事に骨のない魚を取り入れたり、利用者の行動にあわせた業務の流れに変更したりしている。職員からの資格取得や研修希望には出来る限り対応できるように、管理者はシフト調整をしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	月に1度代表者も出席する会議を行って、要望や意見などを提案し、それらを基に整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人研修や認知症実践者研修を受講している。また、法人内での勉強会が行われている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域密着サービス連絡協議会に入会し、そこの研修等を通じて、交流を図っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前にはなるべく本人にも来ていただき、直接本人より不安や要望・疑問点など会話できる機会を設けるよう努めている。入居後にもこまめに声をかけ、不安を取り除くよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に実際に来ていただき、直接家族の方から安や要望・疑問点などを聞き不安等少しでも解消するよう努めている。入居後も疑問点等あったらいつでも対応することを話している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	要望や状況を確認し、ケアマネとも相談し対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	掃除や食事の下ごしらえなど本人ができる範囲のことを一緒になって行っている。お互い不得意なことを手伝ったり手伝ってもらったりしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日常生活や行事などにおいて家族の協力を得ながら、利用者を支えていただいている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会や行事への参加をお願いしたり、面会者にはいつでも面会可能なことを伝え、今後も継続して来ていただくようお願いしている。	馴染みの人間関係について、入居前に家族に聞いたり、普段のコミュニケーションから把握し、ヒントとなる人間関係について気づいた際には記録している。友達が訪ねてくる際には歓迎したり、手紙を書くことや電話をかけることを希望する入居者には職員が手伝う等の支援をしている。また、ホームから家族等へ年賀状を出す際には、入居者に声をかけて一言書いてもらったりしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	自分から関わり合いが難しい方には、職員が仲介役となっている。利用者同士がお互い心配するように声を掛けあったりするような場面も多い。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も相談などあった場合は、情報提供や相談に応じて支援している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時に聞き取ったり、毎日のコミュニケーションの中で希望や意向を聞き取り、汲み取るよう努めている。	家族に聞いたり、普段の会話から希望を汲み取るよう努めている。入居者毎に担当職員を決めているが職員全員で入居者を見ることにしており、入居者の情報を共有できるよう、気づいた事は「申し送りノート」に記入している。出勤時には、全ての職員が目を通して	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前後に家族の方に確認している。また、入居後も普段の生活の中からも把握するよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その日その日で変化があるので、特に変化があったときは申し送り等を行い把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族の意向を聞き、また職員からの情報や意見も出し合い作成している。	家族の意向、月1回のモニタリング、職員の意見、かかりつけ医の意見等をケア会議で出し合い、それらを踏まえ計画を作成している。3ヶ月に1回の見直しを基本としているが、変化があった時は、会議等で話し合い、随時変更している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活記録や申し送りノートに記入し、職員間で情報を共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	可能な限り本人や家族の要望やニーズに対応するよう取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアの方や近所の床屋さん、医師の往診など協力を得ながら支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に本人や家族の意向を確認し、希望の医療機関での受診を行っている。	入居時に希望のかかりつけ医を確認し、継続して受診しており、家族が受診対応している。受診前後は、家族と情報をやり取りし、ホームでの様子を伝えたり、必要によってはメモを渡し、スムーズに受診が出来るよう努めている。月1～2回、協力医療機関の往診があり、処方薬を看護師が持ってきてくれる等、連携をとっている。往診の際に変化があった入居者については、電話等で家族に伝えている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	定期受診や往診時以外にも変化があった時など電話で報告・相談して指示をもらっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時の面会を密にし、利用者を安心させるとともに、医師や看護師と直接情報交換を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に施設でできる支援について説明をおこなっているが、利用者の状況に応じて家族や主治医と相談して対応を検討している。	入居時に、医療的な処置が必要になった場合には入院もしくは他施設への入所になる旨の説明を家族にしているが、重度化した場合や終末期に関して、事業所で対応可能な範囲等の具体的な方針や指針が明確になっておらず、今後の課題になっている。	職員や関係者等と繰り返し検討し、具体的な事業所の指針や方針を作成し、職員間だけでなく家族等とも共有することを期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを設置しているが、今後応急手当の訓練を検討したい。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の火災予防訓練を実施して消防署に計画書を提出している。地域の区長さんと一緒に近所の方に災害時等の協力を依頼している。	年2回入居者も参加して火災予防訓練を実施しており、今年度は7月に実施し、発見から誘導・避難等の手順確認や、通報装置の使い方等を練習している。来年1月には夜間想定訓練を計画しており、区長等、地域の方の参加を呼びかけて実施する予定である。	非常災害時に地域の方の協力が得られるよう、区長・班長を含めた近隣の方に今後も文書等を用いて働きかけ、協力体制が築かれることを期待したい。

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	声掛けの方法や対応には注意を払うよう会議や申し送り時に確認している。	プライドを傷つけるような声かけには注意しており、普段から、名字や名前に「さん」を付けて呼んでいる。また、排泄介助時には用を足している間、職員が見えないように工夫する等、羞恥心への配慮をしている。法人の虐待に関する委員会で実施した「言葉の虐待」等の勉強会にホーム職員も参加し、職員間で共通認識をもつよう努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	毎日のコミュニケーションの中で何気なく意向や希望を聞いたり、いくつか選択肢を設け自ら選んでもらうような機会をつくるよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その人独自の生活リズムを尊重し、その時その場面での意向を考慮して支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	化粧水やクリームなど希望される方がいるので準備している。また、訪問理容をお願いして本人の希望にそって切ってもらっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	それぞれできることを活かしながら皿洗いや下ごしらえ、テーブル拭きなど一緒に行っている。また、海苔巻きやおやつなど全員で作って食べたりしている。	食事は、職員1名が同じものを一緒に食べている。時には、入居者と職員と一緒に海苔巻き等を作り、テーブルで会話をしながら楽しんでいる。ホールの壁にその日の当番の名前が掲示され、「いただきます」の号令をかけている。月1回程度の外食は、職員が下見をした複数の案から、入居者が場所を決めている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	法人の栄養士の献立を参考にして食事を作っている。また、食事や水分摂取量の記録をし、場合によって飲みやすくしたり好みのものを用意している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアを行っている。義歯を利用している方については毎晩洗浄液につけている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェックをして排泄の確認とパターンをつかんだり、介助が必要な方には必要最低限の介助を心がけて支援している。	毎日排泄チェックを行い、排泄パターンを把握している。便秘時には、ヨーグルトやプルーンを取り入れたり、マッサージで自然排便を促すが、医師に相談し緩下剤を使用することもある。尿・便意が不確かな入居者には、定時誘導をしている。リハビリパンツを使用している入居者に布パンツでの対応を試みる等、入居者の状況に応じ検討している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	ヨーグルトやプルーンなど好影響をもたらす食品を食べてもらったり、散歩や体操を毎日行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週3回は曜日を決めて行っているが、それ以外にも希望により入浴が可能である。菖蒲湯や柚湯など季節に応じたお風呂で楽しんでいる。	原則は曜日を決めた週3回の入浴であるが、希望によりそれ以外の入浴も対応可能である。入浴を嫌がる場合には無理強いせず、時間や曜日を変え対応している。ゆずや入浴剤を入れたり、仲良しの入居者同士で入浴する等、楽しめる工夫をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ひとり一人の意向を大切に、休みたいときには短時間でも休んでもいただいている。昼食後には休息の時間を設けている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の目的や作用・副作用など記載された本を準備していつでも確認できるようにしている。また、間違いのないよう名前や服薬時間をそれぞれの薬に記入している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	これまでの生活歴や趣味を参考にして、裁縫道具や読み物・ビデオやDVDなど用意している。毎日散歩やドライブを行い気分転換を図っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	要望があるときは職員同行出かけたり家族に依頼してもらっている。月に1度は全員で夕食等に出掛けたりしている。	ほぼ毎日散歩をしており、入居者の状態に応じ、長短のコースに分かれ散歩し、業務日誌に記録している。週2～3回、法人の他施設に車で行く用事に、毎回2～3名程度順番に声をかけて入居者と一緒に出かけしており、時には回り道をしたり、買い物や少林山等へのドライブを楽しんでいる。季節にあわせた外出行事や夕食は、月1回程度計画し実施している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ホームの事務所で利用者の金銭を管理しているが、希望で小額のお金を自分で所持している方もいる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人より電話の要望があった場合は自ら電話をかけるよう介助したり、手紙の要望があったときは便箋やハガキを用意している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	トイレや自分の部屋を間違ってしまう方のドアに名前を貼ったり、違和感がないよう写真や職員と利用者が一緒に作った作品を掲示して生活感や季節感を採り入れている。	事業所の中央に位置する居間兼食堂は、天窓や窓からの光が入り明るい。散歩時にあつめた紅葉が壁面に飾られていたり、納涼祭等の行事写真や家族との写真が飾られている。居間のテーブルの椅子は色別になっており、座る場所に迷っても色で分かるよう工夫がされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールにソファを設け気のあった者同士過ごせるようにしている。たたみに座り足を伸ばして過ごしている方もいる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族の方にはできるだけ自宅で使い慣れた物や衣類、思い出の物を持ってきていただくようお願いして利用している。	家族や本人の意向により、居室には自宅で使っていたベットや筆筒等が持ち込まれたり、相談して購入したりして、配置等を聞きながら使いやすいよう配置している。また、写真や塗り絵が飾られている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	床の段差をなくし、廊下やトイレ・風呂場に手すりを設置している。また、居室の入り口に表れを下げたり、カレンダーを手作りにして文字を大きくしている。		